

第15回「上尾道路（江川地区）環境保全対策検討会議」

の議事概要について

標記の会議が、以下のとおり開催されましたのでお知らせいたします。

1. 開催日時 平成27年2月24日（火） 15:00～17:00
2. 開催場所 上尾市コミュニティセンター 2F 視聴覚室
3. 議事概要

1) 事業者説明要旨

①第14回検討会議の議事概要

- ・ 第14回検討会議の議事概要について報告

②第6回湿地保全プロジェクトチーム

- ・ 平成27年1月28日に開催した第6回湿地保全プロジェクトチームの内容について報告

③道路排水計画

- ・ 第14回検討会議を受けて再検討した道路排水計画について報告

2) 意見・助言の概要

項目	議事概要	
第 14 回検討会議の議事概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発言者の氏名は非公表ということだが、議長名は入っていたほうがよいのでは。(委員) ・ 議長は載っていたほうがいいですね。(議長) 	
第 6 回湿地保全プロジェクトチーム(1月28日開催)	事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかりました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 6 回湿地保全 PT のコーディネーターより概要を報告した。(埼玉県生態系保護協会) ・ 湿地保全プロジェクトチームは環境保護団体、地元の方、学識者、行政が構成メンバーとして 13 名ほどが参加し、現場を確認した。桶川側の保全エリア、帝京グラウンドの中間ぐらいままでとビオトープエリアになっている道路区域の状況を確認した。上尾側の湿地保全エリア、実験地や移植の状況を再度確認し、農村センターに戻って会議を進めた。 ・ 具体的な内容は、今後、改めて桶川側あるいはビオトープの計画の作成を検討していこうとなった。検討会議と湿地保全 PT それぞれの規約や設置要綱の関係性が明確になるべきとの意見について、改めて事務局が整理をすることとなった。 ・ 保全エリアをもっと拡大すべき、設定すべき条件を出して整理すべきといった意見があった。 ・ 配布資料の中に「湿地保全計画(案)H26.3」があるが、前回の第 14 回検討会議(平成 26 年 8 月開催)のときになぜ報告されなかったのか。(議長) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湿地保全 PT の中で環境保護団体の皆さんの意見が反映されていないということで前回の検討会議には出さなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湿地保全 PT で議論をしてまとまったものを検討会議に出すならば、議論する意味があるが、湿地保全 PT に出したが特に意見も伺っていないというものは、どう対応したらいいかわからない。(議長) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 6 回湿地保全 PT を踏まえて今後湿地保全 PT で湿地保全計画をつくり、改めて検討会議でご協議いただくということです。今回は、第 6 回湿地保全 PT でこういう議論をしていますという報告です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 6 回湿地保全 PT の中で、検討会議とプロジェクトチームとの関係性について検討会議で決めたいとまとまっていたが、なぜ今回それが議題として上がってこないのか。(委員) ・ 第 6 回湿地保全 PT の議事要旨というのはないのか。(議長) ・ 湿地保全 PT に座長はいないし、だれが中心になってまとめるのか。(委員) 	

項目	議事概要	
第 6 回湿地保全プロジェクトチーム(1月28日開催)	<ul style="list-style-type: none"> • 資料だけでは何をするのか分からない。(委員) • 湿地保全 PT の議事録はいらぬとの判断はだれがするのか。事前に検討会議の内容を委員と協議して議事次第を作るべきではないか。(委員) • 開通までに何をして湿地保全計画案をまとめるといったスケジュールが分かったほうがよいのでは。あと何回ぐらい会議をやったらこの辺がまとまり、開通までに湿地保全の計画がちゃんとでき、開通するまでに工事をどうするかとかを含めて考えるはずの計画。それができないでどんどん工事が進んだら、おかしな話で、スケジュールがないままにやっていると、最後が心配だ。(議長) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 上尾道路の開通は、今皆様にお示ししているのは平成 27 年度です。まだ具体的に工程を精査している最中で、どういうふうに進めていくかということは説明したい。 <ul style="list-style-type: none"> • 湿地保全計画(案)をプロジェクトチームで次回早急に検討していただいて、それを取りまとめたものでこの会議をもう一回開くということか。(議長) • そうではなく、湿地保全 PT が検討会議に報告して、検討会議は指導・助言する役割があるが、規約に入っていない。湿地保全 PT の位置づけ、検討会議との関係性、メンバーの決め方、湿地保全 PT 自体の運営方法などが明確になっていない。検討会議が委嘱をするのか、指導・助言後どこで確定するか、メンバーの承認が必要かなど検討会議の方に出されていない。検討会議と湿地保全 PT との関係性を明確にしていだかないと湿地保全 PT も開けない。(委員) • 第 13 回会議資料によれば、湿地保全 PT と検討会議の進め方が認められたので、当然大宮国道はプロジェクトチームの設置要綱だか会議ルールのようなものをつくって動かしていると思うがどうなのか。(議長)
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 湿地保全 PT の要綱みたいなものはある。事務所としても湿地保全計画を皆さんのご意見を聞いてつくっていきたく思いますので、湿地保全 PT の議論は議論で進めさせていただき、会議の規約への湿地保全 PT の位置づけの部分は、また会議を開かせていただきご議論いただければと思っております。 <ul style="list-style-type: none"> • きちんと検討会議の中で位置づけや規約を変更していただいて、湿地保全 PT との関わり方というのを文書や運営要領の中に入れていただきたい。(委員) • 湿地保全 PT 先にやったださっても良いが、湿地保全 PT をきちんとルールづけするだけのためにもう一回この集まりをするのは大変でしたら、とりあえず湿地保全 PT のほうは動き出していただいて、きちん

項目	議事概要	
第 6 回湿地保全プロジェクトチーム(1月28日開催)	<p>と議事録をとっていただいて、次の検討会議に報告していただくということでも結構です。(議長)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 湿地保全 PT や検討会議というのは、道路が開通しても、仕事に積み残しがあったら、継続するものなのか。(委員) • だから、先ほど言ったようにスケジュールを明確にしないと困る。(議長) • 規約第 4 条 3 項の中にプロジェクトチームを位置づけるということをやっていただきたい。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 検討会議の規約の中身のことなので、もう一度整理させていただいて、議長とも相談させていただいて、次の検討会議に説明し、議論していただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> • 検討会議できちんと位置づけをしますと次の湿地保全 PT のときに説明してください。(委員) 	
	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 早急にやっていただくということで、よろしくお願いします。
道路排水 (資料を提示し説明)	<ul style="list-style-type: none"> • 数字が分からない。塩分は対象としていないのですか。どの程度の雨量にたえられるか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 凍結防止剤は、塩化ナトリウムを橋の上に 1 平米あたり 20 グラムぐらい撒く。貯留施設の集水面積自体が約 14.3 ヘクタールぐらい、橋の上は概ね 0.57 ヘクタールぐらいで大体 4% ぐらいの面積です。降雨強度 2 ミリぐらいの雨に全て溶け出して流れて川に入っていくという仮定で、道路に降った雨自体で約 25 倍に、江川の水で約 17 倍に希釈されていく。江川の川の中に入る塩分濃度は 0.005% ぐらいになる。一般に淡水と言われる塩分濃度は、0.05% と言われているので、塩分は除去できないが、入っていても江川自体は淡水と言えらると思っています。 • どのぐらいの雨に耐えられるかということは、地下貯留施設自体の容量は、雨降り始めてから累計で 130 ミリ程度ぐらいの降雨まで貯留することができる大きさを持っている。平成 25 年 10 月の台風 26 号では、鴻巣観測所で 132 ミリ降りました。それから、過去 10 年ぐらいでさかのぼって調べると、130 ミリというのを超えた年は 3 回あったということで、おおむね 3 年に 1 回ぐらい 130 ミリを超えることがあるということです。この貯留槽は 132 ミリぐらいまでなら貯留することになる。
	<ul style="list-style-type: none"> • それ以上降ったときはあふれてしまうということですか。あふれてしまうと、油は貯留槽に行かないで江川に流れてしまうということ。(委 	

項目	議事概要	
道路排水 (資料を提示し説明)	員) ・ 貯留槽に入る前にあふれるのですか。(委員) ・ 粉じんというか、SSはもう攪拌されてしまっているから、あふれているということですよ。(委員)	
	事業者	・ それだけ大雨が降ってきている状態だと、ファーストフラッシュに油分やSSが含まれるので、初めに降った雨で路面が洗われるので、大雨の時にあふれる水は、ほとんど雨水と考える。
・ 地域に降った雨を地域にとどめるというのが湿地の重要な役割だと思う。以前、帝京学園の半分ぐらいが何にも使われていないので、あそこに簡単でいいからビオトープみたいのを作って貯めて、地域に水がとどまるというのはどうかと話した。今度江川に流して、そのまま荒川に流れていってしまったら湿地保全エリアやサクラソウトラスト地の乾燥化が進むのは明らかではないか。こんな事を決める前に一言私たちに言ってもいいのではないかと、非常に無念な気持ちが出ており、同意しかねている。(委員) ・ これからやる工事なのか。(委員)		
事業者	・ 地下貯留槽は設置した。	
・ 第13回検討会議が紛糾し、私たちが一回辞表を出したことでまた同じことを繰り返し、それがわかっているのか。また事後報告なのですか。(委員)		
事業者	・ 前回の検討会議で、雨水は地下へ浸透させるとお話しさせていただいたが、議長から浸透はだめだということ強く言われ、見直してちゃんとやりなさいという意見をいただき、議長に相談し、現在のものにした。	
・ それなら、そう報告に書き、検討会議は要らない。議長がアドバイザーで、終わりではないですか。第14回の検討会議では、再検討を要するとまとめたはず。(委員) ・ 議題についていいとは言っていない。(議長) ・ 工期と金額言ってください。いつやったんですか。(委員)		
事業者	・ 工期と金額は、今持ち合わせておりません。	
・ 環境影響評価法では道路工事による環境影響評価をすることになっているけど、この場合は閣議決定だからこの会議をやっている。(委員) ・ コンクリート流し込みなので、コンクリートのあぐの処理やアルカリ土壌の検査というのはどういうふうにしたか、時期はいつか。(委員) ・ 深さはどのくらいまで掘ったのか。土台を固めるのに地盤凝固剤を入れているのでしょうか。水脈への影響は、どういうふうに検討されたか教えてください。(委員) ・ コンクリートの量がどのくらいか知りたい。(委員)		

項目	議事概要	
道路排水 (資料を提示し説明)	<ul style="list-style-type: none"> • どういう配慮したかは、お答えいただけるかと。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • アルカリについては、湿地保全PTの資料の中にありますが、調査をして、pHの確認をしており、今時点ではpHが高くなったことは出ていません。
	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • もう一度精査して、まとめてご報告いただければと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> • 全部で何グラムになるのですか。計算したら114キロの塩が撒かれる。(委員) 	
	<ul style="list-style-type: none"> • 何回くらい撒くのでしょうか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 年6回くらい撒いた実績はある
	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 正確な数値をお出しいただくのと、本来湿地に供給されるべき水が川に流されてしまうということについてどう考えたらいいのかという大きな疑問が出されました。
	<ul style="list-style-type: none"> • 江川の流域づくりの中で、現況地盤活用案というのが一応決まっているわけですが、どういうふうに検討されたのか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 条例に基づいた協議になると聞いています。
	<ul style="list-style-type: none"> • その分の雨水の量が川に流れていくわけだから、湿地の乾燥化をどうするかですよね。川にお塩が流れて行って、荒川に行ってそれが飲み水になると、化学的というとトリハロメタンの発生をふやすということになるわけですね、Clがふえていくから。それは、荒上とは協議をされているのですか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • いえ、荒上としていません。
	<ul style="list-style-type: none"> • 資料の2-7の写真の油分は最終的にどこにたまるのか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 黄色い点が油で、赤いところのすぐ下に黄色い点がついていて、油は水より軽いので、上に浮いてきてたまっているというイメージです。
	<ul style="list-style-type: none"> • 3カ月に1回取るわけですか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 点検します。
	<ul style="list-style-type: none"> • 抜き取りはどのくらいですのですか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 最低3カ月に1回は点検し、その量によってすぐ掃除するか、もうちょっといけるかということを考える。また、事故があつて油が出たときは、その都度、行きます。
	<ul style="list-style-type: none"> • 油分は何センチぐらいになるものなのですか。(委員) 	
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 油は0.9立米、溜められます。
	<ul style="list-style-type: none"> • 油水分離柵や貯水槽のメンテナンスというのは幾らかかるものなのでしょうか。(委員) 	
事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 幾らとかというのは1つつ出していません。 	
<ul style="list-style-type: none"> • 湿地をつくって自然な形で吸収するほうが初期コストはかかってもそ 		

項目	議事概要	
道路排水 (資料を提示し説明)	<ul style="list-style-type: none"> • れから先のコストはかからないということは検討しないのですか。 • 環境面からどのように検討されたかわからないので、どのように対応したかを示してほしい。塩分については江川に 684kg 流れるので見過ごすわけにはいかない。湿地が乾燥化されるという問題はどうか。この案では認められないので、プラスアルファ含め検討してください。(委員) 	
	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろ指摘事項がありましたので、次回までに整理をしてご報告いただくということでお願いしておきます。
	<ul style="list-style-type: none"> • 結論はそれでいいと思うが、ファーストフラッシュについて言われていたが、環境に負荷を与えるということは世界的にも知られており、それを取るのを前提で考えていると思う。自然に戻すというのは簡単に言わない方がよく、自然に任せるようなことはできない。その対応策として何ができるかということを最初に示すべきで、説明が不足していたのではないか。(委員) • 参考資料に財団法人道路環境・道路空間研究所の圏央道のケースが紹介されているが、この形の調整池は、なぜできないのか説明頂きたい。(委員) 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 以前、検討会議でオオタカの保護についてあったが、金網をかけるというのはどうなったのか。(委員) • 2月13日付けで湿地保全エリアを広げてほしいという要望書を出している。それを考えていただきたい。(委員) 	
議事全体	議長 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 一通りご意見はいただいていますので、次回ご回答いただければというふうに思います。
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> • いただいた意見につきましては、議長と相談させていただく。